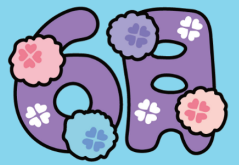


あいにくだより



百日咳ってどんな病気？

百日咳は激しい咳が続く細菌性の感染症で、特に生後6か月以下の乳児が感染すると重症化して死亡するおそれもあります。

国立健康危機管理研究機構によりますと、4月13日までの1週間に全国の医療機関から報告された患者数は1222人で、過去最多だった前の週を500人上回り、記録を取り始めた2018年以降で最も多くなりました。

今シーズンは患者数の増加に伴い乳児が死亡したり、重症化したりするケースが報告されているほか、これまで治療に使われてきた抗菌薬が効かない「耐性菌」に感染するケースも各地で報告されています。



百日咳ってどんな病気？

百日咳とは、百日咳菌という細菌による呼吸器の感染症です。百日咳菌が気道に付着すると百日咳毒素をつくりだし、激しい咳発作を起こします。百日咳菌は非常に感染しやすい細菌で、くしゃみや咳をした時に飛び散る飛沫や、患者との接触で広がります。

子どもは母親から百日咳の抗体を受け継いでいません。そのため、ワクチン未接種の乳幼児が百日咳にかかると激しい咳による呼吸困難や二次感染による肺炎の併発など、症状が重くなる確率が高くなります。まれに一時的な呼吸停止によって死に至ることや脳への感染によって脳炎を起こし、脳の損傷や、知能の発達に遅れが見られる精神遅滞などの重大な障害を起こす危険性もあります。



子どもが百日咳にかかると？

百日咳菌に感染すると、通常7日間ほどの潜伏期間を経て、次のような経過で症状が現れます。

●カタル期（約2週間）

鼻水や咳など、軽いかぜのような症状が現れ、次第に咳の回数が増える。カタル期の初期が最も感染力が強い。

●痙咳期（2～3週間）

短く激しいコンコンコンという咳が連続して起こった後、ヒューという音を伴いながら苦しげに息を吸う咳発作を繰り返す。

2～3週間かけて咳発作は次第に治まります（回復期）。

百日咳の予防は？



五種混合（DPT-IPV-Hib）ワクチン（定期接種・不活化ワクチン）で予防します。赤ちゃんの百日咳が流行していますので、生後2か月から4週間隔で3回受けると予防効果が高くなります。B型肝炎、ロタウイルス、小児用肺炎球菌と同時に接種で受けることをおすすめします。

7月のわくわくサークルのお知らせ

「オブジェ-海のものを作ろう-」

日時：令和7年7月30日（水）10:00～11:30

場所：西庄公民館1階和室

持ち物：コップ、お皿、フォーク



愛育会の
Instagram